

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

| | 変更 | | 変更前 | 変更後 | 変更理由 |
|---------------|----|----|-----|-----|------|
| | あり | なし | | | |
| A. まちづくりの目標 | | ● | | | |
| B. 目標を定量化する指標 | | ● | | | |
| C. 目標値 | | ● | | | |
| D. その他() | | ● | | | |

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

| 基幹事業 | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|------|--------------|--------|--------------------|--|--|------------|-------|
| 事業 | 事業箇所名 | 当初計画 | | 最終変更計画 | | 当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む) | 都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響 | 事後評価時の完成状況 | |
| | | 事業費 | 事業内容 | 事業費 | 事業内容 | | | 完成 | 完成見込み |
| 道路 | 市道旭町上町線 | 30 | 1箇所 L=12m | 5.2 | L=50m | 橋梁部拡幅不要に伴う事業費減。 交通障害解消に伴う整備延長の増 | 影響なし | | ● |
| 道路 | 市道伊勢町裏線 | 30 | L=60m | 0.5 | L=20m | 県との詳細協議の結果、市の事業 費負担対象範囲が減 | 影響なし | ● | |
| 道路 | 市道大神宮北線 | - | なし | 5.7 | 平成21年に計画変 更して追加 | 同時施行の河川改修工事の箇所 変更に伴う、路線の追加 | まちづくり目標2に関連するが、当初路線と連続しているため指標 及び数値目標に影響はなし | ● | |
| 地域生活基盤 施設 | 広場 | 145 | 1,400㎡ | 136.2 | 1,400㎡ | 整備内容の変更及びコスト縮減に よる事業費減 | 影響なし | ● | |
| 地域生活基盤 施設 | 観光交流駐車場 | 60 | 1,000㎡ | 60.0 | 1,000㎡ | なし | - | ● | |
| 地域生活基盤 施設 | 地域防災施設 | 40 | L=300m | 0.0 | L=0m | 平成22年8月に計画変更して削除 計画地区の水源確保調査が進まず、計画 期間内での事業実施は不可能であるため 中止 | 影響なし | | |
| 地域生活基盤 施設 | 情報板 | 5 | 10箇所 | 7.0 | 8箇所 | 事業内容の精査により、箇所数を減ら し、電子情報板として1箇所設置するこ とによる事業費増 | 影響なし | | ● |
| 高質空間形成 施設 | 散策道 | 10 | L=300m | 0.0 | L=0m | 平成20年11月に計画変更して削除 他事業による実施 | 影響なし | | |
| 高次都市施設 | 観光交流センター(伝世館) | 50 | 1箇所 | 39.6 | 1箇所 | コスト縮減による事業費減 | 影響なし | ● | |
| 既存建造物活 用事業 | 情報の駅 | 10 | 1箇所 | 0.0 | 0箇所 | 平成21年8月に計画変更して削除 他事業による実施 | 影響なし | | |
| | | | | | | | | | |

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

| 事業 | 細項目 | 当初計画 | | 最終変更計画 | | 当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む) | 都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響 | 事後評価時の完成状況 | |
|-----------------|----------------|------|-----------------------|--------|--|---|---|------------|-------|
| | | 事業費 | 事業内容 | 事業費 | 事業内容 | | | 完成 | 完成見込み |
| 地域創造 支援事業 | 地盤沈下地域対策事業 | 25 | 個人宅地に融雪施設を整備する際に補助金交付 | 4.1 | 地下水利用と地盤沈下の因果関係を分析・把握するため観測機器を設置 | 需要状況を精査した結果、当初の事業では想定した効果が期待出来ないため、別の事業により対策を図った。 | 事業の内容を変更したもので、影響なし。 | ● | |
| | 天地人博開催事業 | 50 | 既存倉庫を改装し、博覧会会場として整備する | 0.0 | | 平成20年11月に計画変更して削除、市の単独事業として実施することによる。 | 関連事業として実施されており、影響なし | | |
| | 足湯設置事業 | 4 | 観光交流センターに隣接して設置する | 0.0 | | 平成23年11月に計画変更して削除 近隣箇所に別事業による同様な施設が完了したため。 | 関連事業として実施されており、影響なし | | |
| | モニュメント設置事業 | - | なし | 34.6 | モニュメント5体 銅像1対設置 | 平成22年8月に計画変更して追加 戦国EXPOとの相乗効果を狙い、まちなかの周遊ルートを創出 | まちづくり目標1に関連するが、指標及び数値目標は据え置く | ● | |
| 事業活用調査 | 市道整備事業化検討事業 | - | なし | 5.6 | 測量、現況調査 整備課題及び条件整理 | 平成21年8月に計画変更して追加 狭隘道路の改良と雨水幹線路の改修により安心安全な道路交通確保を行うための調査設計を行う | まちづくり目標2に関連するが、指標及び数値目標は据え置く | ● | |
| まちづくり 活動推進事業 | 広報事業(パンフレット作成) | 3 | PR用パンフレット作成 | 1.5 | 坂戸城跡観光案内パンフレット・美少女観光パンフレット | コスト縮減による事業費減 | 事業費に変更が生じたが、影響なし | ● | |
| | まちづくり活動団体への助成 | 15 | まちづくり活動団体への助成 | 1.5 | 兼続まつりのスケールアップのため、天地人パレード実施の補助 | 過年度の事業費実績を踏まえて、事業費を精査し減額。 | まちづくり目標1に関連するが、指標及び数値目標は据え置く | ● | |
| | コミュニティバス運行事業 | 5 | 本庁舎拠点に3路線の循環バスの運行 | 1.6 | 大河ドラマ「天地人」ゆかりの地観光スポットを巡るシャトルバス運行(101日) | 事業内容の精査により、イベント期間との相乗効果を狙い、ゆかりの地の周遊バスとしたことによる、距離、台数等の精査による事業費減。 | 事業の内容を変更したもので、影響なし。 | ● | |

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業費 | | 事業期間 | | 進捗状況及び所見 | 備考 |
|----------------|-----|-------|------|--------|---------------|--------|--|----|
| | | | 当初計画 | 最終変更計画 | 当初計画 | 最終変更計画 | | |
| 国道17号六日町バイパス事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成6年度～ | - | 自:竹俣～至:庄之又(5.1km) | |
| 十二沢川改修事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成15年度～ | - | 改修延長L=1,700m | |
| スノートピア事業 | | 兼続地区 | - | - | 昭和61年度～ | - | 流雪溝(192ha) | |
| 庁舎建設事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成20年度～平成23年度 | - | 消防庁舎改築 | |
| 坂戸城跡整備事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成5年度～ | - | 坂戸城跡御館の石垣及びその周辺の修復整備 「坂戸城跡環境整備基本計画」 | |
| 散策道整備事業 | | 兼続地区 | - | - | - | - | さいたま市山の家裏から城跡石垣までの遊歩道整備 | |
| 天地人博開催事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成20年度～平成21年度 | - | H21.1.11～H21.12.27開催 来場者数431,105人 | |
| 情報の駅 | | 兼続地区 | - | - | 平成20年度～ | - | FM雪国内改修等 | |
| 足湯設置事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成20年度～平成23年度 | - | H20お六の湯(こうりんぼう横)・H23お六上の湯(兼続通り商店街) | |
| 既存物ライトアップ事業 | | 兼続地区 | - | - | 平成22年度～ | - | 六日町大橋・仲町児童公園 桜並木・駅看板 | |

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

| 指標 | 単位 | データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等) | (参考)※1 計画以前の値 (ア) | | 従前値 (イ) | | 目標値 (ウ) | | 数値(エ) | | | 目標達成度※2 | | 1年以内の 達成見込みの有無 | | |
|-----|--------------|---|---|----------|------------|----------|------------|----------|-------|--------|---------|---------|--------|-------------------|--|---|
| | | | | 基準 年度 | | 基準 年度 | | 目標 年度 | | | | | あり | なし | | |
| 指標1 | 定住人口 | 人 | 平成24年3月31日時点の住民基本台帳の地区別データと過去の傾向・変動率から、評価基準日の評価値を推計。 | 7,409 | H8 | 7,171 | H18 | 7,100 | H24 | モニタリング | - | - | モニタリング | | | ● |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 7,080 | 事後評価 | △ | | |
| 指標2 | 主要観光施設への来客者数 | 人 | 平成23年度宿泊者数調査報告書での兼統地区の整備計画区域内に所在する宿泊施設の宿泊者数を活用。 | - | | 88,334 | H18 | 100,000 | H24 | モニタリング | - | - | モニタリング | - | | ● |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 76,406 | 事後評価 | △ | | |
| 指標3 | 六日町駅の乗降客数 | 人/日 | 平成23年度 東日本旅客鉄道株式会社乗車人員調査の結果を用い、平成23年度の六日町駅の1日当り乗降客数を活用。 | - | | 5,637 | H17 | 5,637 | H24 | モニタリング | - | - | モニタリング | - | | ● |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 5,313 | 事後評価 | △ | | |
| 指標4 | | | | | | | | | | モニタリング | | | モニタリング | | | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み | | 事後評価 | | | |
| 指標5 | | | | | | | | | | モニタリング | | | モニタリング | | | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み | | 事後評価 | | | |

| 指標 | 目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む) | その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等) |
|-----|---|----------------------------|
| 指標1 | △: 目標には至っていないが、人口の減少傾向は市全体及び他地区に比べ抑えられている。H24年度では他地区が軒並み減少している中、当該地区は微増が見込まれる。また賃貸住宅着工の伸び等により世帯数の増加にもつながり効果が表れてきている。 | - |
| 指標2 | △: 一度は目標を達成出来たが、その後の震災に伴う風評被害と、景気後退により達成には至っていない。しかしモニュメント、交流センター、足湯、情報板等関連事業も含んだ整備により周遊ルートの魅力も向上し、一定の歯止め効果は発現しており、改善の兆しも見えてきている。 | - |
| 指標3 | △: 目標には至っていないが、景気の衰退による観光客、少子化による通学生の減少、さらには車利用による移動手段の変化により減少傾向はあるものの、駅からハイキング、周遊バス等といった事業も発生し、交通ネットワークの拠点としての役割は果たしている。また過去10年間の減少率を市内他駅の平均△15.9%、隣接地域の他駅平均△18.0%と比較すると、△4.4%に抑えられており、交付金事業は減少傾向の抑制に貢献している。 | - |
| 指標4 | | |

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

| 指標 | データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等) | 単位 | (参考)※1 計画以前の値(ア) | | 従前値(イ) | | 数値(ウ) | | | 本指標を取り上げる理由 | その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等) |
|-----------|---------------------------------------|----|------------------|------|--------|------|--------|-------|---|---|--|
| | | | | 基準年度 | | 基準年度 | | | | | |
| その他の数値指標1 | 定住人口減少率 | % | - | - | △4.12 | H18 | モニタリング | | | 定住人口については、全市的に減少傾向であるため、事業の効果を確認するにあたり、兼続地区の減少率の数値が効果を表す指標としてふさわしいと考えられるため。 | 指標1を補完し、定住人口の減少抑制に効果があったことの根拠として採用。南魚沼市の人口はH18年度比で△4.12%の減少に対して「兼続地区」では△1.27%と人口の減少を抑えられているため、改善傾向にある。 |
| | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み | ● | | |
| その他の数値指標2 | イベント数 | 件 | - | - | 13 | H18 | モニタリング | | | 「主要観光施設への乗客者数」の計測手法のデータを「宿泊者数調査報告書」から求めることとしているため、未達成となるが、現実的には、地区の整備効果として、交流人口拡大に向け、地域住民のまちづくりに対する意識の醸成も図られ、新規や独自の事業も展開されてきており、目標に対する指標としてふさわしいと考えられるため。 | 大河ドラマ「天地人」の放映を契機に、歴史資源や自然景観を活用した観光ポイントの整備、魅力の向上と合わせ、中心市街地の活性化、交流人口の拡大を目指した地域団体の機運の高まりにより自発的なイベント開催が増加している。 |
| | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み | ● | | |

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・地域を活性化しようという住民の自主的な活動が始まり、住民主体による今までになかったイベント等が実施され、交流人口の拡大、地域活性化につながっている。例えば、新規としては「コンテンツ・ツーリズム推進協議会」「きりざいDE愛隊」「温泉旅館の女将さんによる朝ごはんプロジェクト」「女子力観光プロモーションチーム」「六日町まち歩きマップの会」「兼続通り商店街組合」による活動、既存団体でも新たにに百八灯点火、観桜会、100円商店街、無料周遊バスといった活動が実施され盛上りを見せている。戦国EXPOや武将婚に関しては、全国表彰でも準グランプリを受賞している。さらにはこれらの組織が連携していくことが今後の鍵として「いっぽの皆」がH24.12に発足され、ますます気運が高まり広がりがつつある。

・地区内には関連事業とし、地元商店街により新規に足湯も設置され、地域はもとより地域外の方との交流の憩いの場が誕生しており、毎月1,000人前後の利用者がいる。

・モニュメント、銅像、パンフレットに関しては話題性もありマスコミにとりあげられるなど、県内はもとより全国への広がりとなり、南魚沼市の情報発信の一旦を担っている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 実施状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|-----------------------|----------------|----------|
| なし | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |
| | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 実施状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|-----------------------|----------------|----------|
| なし | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |
| | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 構築状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|-----------------------|--|--------------------|--|
| | | i. 体制構築に向けた取組内容 | ii. まちづくり組織名:組織の概要 | |
| コンテンツ・ツーリズム推進協議会 | 予定どおり実施した | <ul style="list-style-type: none"> ● 大河ドラマ「天地人」放映年の「愛・天地人博」を契機に、放映後の地域の持続的活性化に向けた諸事業を企画運営。2010年「戦国EXPO」、2011年「きりざいDE愛隊」（ご当地グルメ、県内初の愛Bリーグ加盟）等へと発展し、その後も継続して展開している。 | コンテンツ・ツーリズム推進協議会 | コンテンツ・ツーリズム推進協議会は、今後も①知識・情報の集約と分析⇒コンテンツツーリズム学会での研究活動②大河ドラマ「天地人」からの流れを汲んだ戦国武将によるまちおこし活動⇒「戦国武将婚」の商品化③ご当地グルメを活用したまちおこし活動⇒「南魚沼きりざい丼」によるまちづくり活動④プロモーション活動⇒「ビジョタビ」プロジェクトの企画に参画等という4本の柱を中心に活動を続けていく予定である。市も連携して活動を推進していきたい。 |
| | 予定はなかったが実施した | | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | | |

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

| 名称等 | 検討メンバー | 実施時期 | 担当部署 |
|-------------------|---|----------------------------------|------------------------------|
| 旧まちづくり交付金事業庁内検討会議 | 事業実施関係各課 建設課1名、都市計画課1名、商工観光課1名、環境交通課1名、総務課1名、企画政策課3名 | 第1回：平成24年11月8日 第2回：平成24年12月6日 | 総務部企画政策課(旧まちづくり交付金「兼続地区」担当課) |

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

| 指標の種別 | | その他の数値指標1 | | その他の数値指標2 | | | | | | | |
|-------------|-----------------------------|-----------|--|-----------|---|-----------|------|-----------|------|--|--|
| 指標名 | | 定住人口減少率 | | イベント数 | | | | | | | |
| 種別 | 事業名・箇所名 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | | |
| 基幹事業 | 道路(市道旭町上町線) | ○ | 定住人口では、南魚沼市全体でも減少している。しかしH18年度との減少率を比べると、南魚沼市全体では△4.12%の減少に対し、「兼続地区」では△1.27%の減少に留まっている。定住人口の減少率では「兼続地区」の減少を抑えられているため、効果をあげたと評価できる。 | - | 「宿泊者数調査報告書」では減少しているが、イベント一覧からは、大河ドラマ「天地人」の放映を契機にした、地区の整備効果として歴史資源や自然景観を活用した観光ポイントの整備、魅力の向上と合わせ、中心市街地の活性化、交流人口の拡大を目指した地域団体の機運が高まり、自発的なイベントの開催が増加している。地域住民のまちづくりに対する意識の醸成も図られ、効果をあげたと評価できる。 | | | | | | |
| | 道路(市道伊勢町裏線) | ○ | | - | | | | | | | |
| | 道路(市道大神宮北線) | ○ | | - | | | | | | | |
| | 地域生活基盤施設(広場) | ○ | | - | | | | | | | |
| | 地域生活基盤施設(観光交流駐車場) | - | | ○ | | | | | | | |
| | 地域生活基盤施設(情報板) | - | | ◎ | | | | | | | |
| | 高次都市施設(観光交流センター(伝世館)) | - | | ◎ | | | | | | | |
| 提案事業 | 地域創造支援事業(地盤沈下地域対策事業) | ○ | | | | - | | | | | |
| | 地域創造支援事業(モニュメント設置事業) | - | | | | ◎ | | | | | |
| | 事業活用調査(市道整備事業化検討事業) | ○ | | | | - | | | | | |
| | まちづくり活動推進事業(広報事業(パンフレット作成)) | - | | | | ◎ | | | | | |
| | まちづくり活動推進事業(まちづくり活動事業) | - | | | | ◎ | | | | | |
| 関連事業 | まちづくり活動推進事業(コミュニティバス運行事業) | - | | | | ○ | | | | | |
| | 国道17号六日町バイパス事業 | ○ | | | | ○ | | | | | |
| | 十二沢川改修事業 | ○ | | - | | | | | | | |
| | スノーピア事業 | ○ | | - | | | | | | | |
| | 庁舎建設事業 | - | | - | | | | | | | |
| | 坂戸城跡整備事業 | - | | ◎ | | | | | | | |
| | 散策道整備事業 | - | | ◎ | | | | | | | |
| | 天地人博開催事業 | - | | ◎ | | | | | | | |
| | 情報の駅 | - | | ◎ | | | | | | | |
| | 足湯設置事業 | - | | ○ | | | | | | | |
| 既存物ライトアップ事業 | - | | ○ | | | | | | | | |

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 今後の活用 | 今後も引き続き定住促進のためのインフラ整備、中心市街地の整備、駅周辺の整備といった施策により、安心・安全な居住環境づくりに努め減少率を抑える | 気運の高まりにより、自発的に誕生した団体やイベントの継続を推進するとともに、定着化・増加を図っていく。 | | |
|-------|--|---|--|--|

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

| 指標の種別 | | 指標1 | | | 指標2 | | | 指標3 | | |
|-------|-----------------------------|------------|---|-------|--------------|---|-------|------------|------|--|
| 指標名 | | 定住人口 | | | 主要観光施設への来客者数 | | | 六日町駅の乗降客数 | | |
| 種別 | 事業名・箇所名 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 |
| 基幹事業 | 道路(市道旭町上町線) | △ | 定住人口は市内全域でも減少の流れの中、目標値の7,100人に若干達しない状況ではあるが、他地区の減少率及び市内平均の減少率と比較すると、平均では△4.12%のところ当該兼統地区では△1.27%に抑制されており目標の1%に近づいた。またH23年度末の比較では、他が軒並み減少する中、微増が見込まれ、効果が出ている。また、参考に世帯数の増加を検証した結果では、社会情勢の変化の中で単身世帯や核家族化が市内全体としても増加傾向にあるが、当兼統地区は特にそれが顕著に表れており、人口の微増と共に世帯数の伸びが順調であり、定住人口増加の兆しが見られる。 | III | - | 未達成の主な原因は、震災後の風評被害やそれに伴う景気の後退であると思われる。震災発生までの4年間は年平均92,000人の宿泊があり、特に大河ドラマ「天地人」が放映されたH21については105,676人の宿泊があった。H23年度は特殊要因として、平均8,500人の客の倒産及び、水害による平均2,500人の客が8月休業したという状況がある。仮にこの要因がなかったものとして、これを加えると87,406人で例年並みと仮定することが出来、逆に持ち直しの兆しの期待ができる。 | III | III | - | 未達成の主な原因は、景気の衰退による観光客、少子化による通学生の減少、さらには車利用による移動手段の変化により減少傾向はあるものの、駅からハイキング、周遊バス等といった事業も発生し、交通ネットワークの拠点としての役割は果たしている。また過去10年間の減少率を市内他駅の平均△16.4%、隣接地域の他駅平均△15.8%と比較すると、△4.4%に抑えられており、減少傾向の抑制に貢献している。 |
| | 道路(市道伊勢町裏線) | △ | | | - | | | | - | |
| | 道路(市道大神宮北線) | △ | | | - | | | | - | |
| | 地域生活基盤施設(広場) | △ | | | - | | | | - | |
| | 地域生活基盤施設(観光交流駐車場) | - | | | △ | | | | - | |
| | 地域生活基盤施設(情報板) | - | | | △ | | | | - | |
| | 高次都市施設(観光交流センター(伝世館)) | - | | | △ | | | | - | |
| 提案事業 | 地域創造支援事業(地盤沈下地域対策事業) | △ | - | - | | | | | | |
| | 地域創造支援事業(モニュメント設置事業) | - | △ | - | | | | | | |
| | 事業活用調査(市道整備事業化検討事業) | △ | - | - | | | | | | |
| | まちづくり活動推進事業(広報事業(パンフレット作成)) | - | △ | - | | | | | | |
| | まちづくり活動推進事業(まちづくり活動事業) | - | △ | - | | | | | | |
| | まちづくり活動推進事業(コミュニティバス運行事業) | - | △ | - | | | | | | |
| 関連事業 | 国道17号六日町バイパス事業 | △ | - | - | | | | | | |
| | 十二沢川改修事業 | △ | - | - | | | | | | |
| | スノートピア事業 | △ | - | - | | | | | | |
| | 庁舎建設事業 | △ | - | - | | | | | | |
| | 坂戸城跡整備事業 | - | △ | - | | | | | | |
| | 散策道整備事業 | - | △ | - | | | | | | |
| | 天地人博開催事業 | - | △ | - | | | | | | |
| | 情報の駅 | - | △ | - | | | | | | |
| | 足湯設置事業 | - | △ | - | | | | | | |
| | 既存物ライトアップ事業 | - | △ | - | | | | | | |

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたとと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能ない要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能ない要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能ない要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能ない要因。

| 改善の方針 (記入は必須) | 指標1 | 指標2 | 指標3 |
|------------------|---|---|---|
| | <p>・今後も引き続き定住促進のためのインフラ整備、中心市街地の整備、駅周辺の整備といった施策により、安心・安全な居住環境づくりに努めるとともに、地区内の空家・空き地の減少と利用促進を図り、緩やかながらも人口の減少抑制・定着を目指す。</p> | <p>・宿泊客の増加を図るために、本市区と他地区の観光施設をつなぐ新たな観光ルートの提案等、市内周辺地のPRや情報の発信を行い、滞在型観光の促進を目指す。</p> <p>・南魚沼市の名を意識して発信していくことが重要と認識を持つ。</p> <p>・新規、既存を問わず地域内に新たに発生した事業や団体の連携した活動により活性化、拡大化も期待できる。</p> | <p>・上越線・ほくほく線が乗入れ、バス路線の拠点でもあり、交通ネットワークの拠点となっている駅の受容性を認識しながら、乗客数の減少傾向とならないように努める。</p> <p>・登山ブームによる坂戸山への出発地としてまた、駅からハイキング等のイベントより利用促進を目指す</p> |

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

| 名称等 | 検討メンバー | 実施時期 | 担当部署 |
|-------------------|---|----------------------------------|------------------------------|
| 旧まちづくり交付金事業庁内検討会議 | 事業実施関係各課 建設課1名、都市計画課1名、商工観光課1名、環境交通課1名、総務課1名、企画政策課3名 | 第1回：平成24年11月8日 第2回：平成24年12月6日 | 総務部企画政策課(旧まちづくり交付金「兼続地区」担当課) |

添付様式5-② まちの課題の変化

| 事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題 | 達成されたこと(課題の改善状況) | 残された未解決の課題 | 事業によって発生した 新たな課題 |
|---|--|--|--|
| 観光客や地域住民が楽しめる歴史・文化的な観光・教育施設と景観整備。 | ・直江兼続公を中心とした観光資源の情報を集約した観光交流センター(伝世館)の建設や情報板等、歴史的な教育施設として整備は達成され、地域の宝を顕彰していくための拠点となった。またこの施設を建設したことにより雇用も生まれた。 | ・維持管理経費の増大と展示内容の刷新。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の宝を顕彰していくための拠点施設とはなったが、開設当時とほぼ同じ展示内容である。しかし、展示替えをしていくための資料が少ない。早急な資料収集が必要。 ・事業期間内に各種イベント、団体が立上ったが、まちづくりの活動を持続し、更に発展させるためには若い世代の参加と関係地域団体の連携が必要。 ・冬期間の利用が制限される施設の維持管理や利用についての検討が必要 |
| 交通ネットワークの拠点である六日町駅と駅前商店街との活性化へのプログラムを組み合わせることによる、交流人口の増加につながる魅力づくり。 | ・駅の近くに観光交流拠点駐車場を整備し観光客や駅利用者の利便を図ったことから、電車、バス路線利用などとの連絡もよく、観光客の利用のみならず市民の利用も多く、交通ネットワークの拠点として十分な機能を果たしている。これにより集客条件も整い、交流人口の増加に貢献している。 ・近年の登山ブームにより登山の出発地として利用する観光客が増加した。 | ・特になし | |
| 駅周辺に存在する魅力あるハイキングスポットと環境と温泉街を連携させた新しいプログラムにより、交流人口の増加につながる魅力づくり。 | ・大河ドラマの関連施設や、市の周辺観光ポイントが一緒になった看板が整備されたことで、様々なお客様の観光ニーズに対応できる態勢が整い、特に坂戸山は多くの観光客、地元の人が訪れている。 ・兼続地区の認知度アップを図るため新しいタイプのパンフ「ビジョタビ」発行で情報発信を行い話題性を得た。 ・温泉の活用方法として足湯の整備も同時期に行い観光客はもちろんのこと地域住民交流の場としても機能している。 ・モニュメント、銅像設置により坂戸山、魚野川に続く「まちのシンボル」として、まちなか散策の推進に好影響を与えている。 | ・H23年7月の豪雨水害により、市内の史跡、自然、ハイキングスポットの散策道等に被害が出てしまっている箇所があること。 ・冬期間はイベントやスポットが「点」になってしまったり、見学できなくなる箇所もある。 | |
| 地盤沈下対策のため、地下水の汲み上げが規制される中で、除雪活動を地域住民と協力して行うとともに、消雪パイプや流雪溝などの消融雪施設の整備と維持、機械除雪体制の見直し。 | ・消雪パイプの整備により冬期の通行の安全が図られるとともに除雪作業の軽減が図られた。 ・観測井戸などが整備され、地盤沈下の観測点が増えることにより、より正確に地盤沈下の状況を把握することが可能となった。 ・地元主体の事業手法による検討結果により、スムーズな住民合意も行われ、道路整備及び都市下水路整備が事業化となり、事業に着手できた。 | ・地盤沈下区域では、地下水に頼らない屋根融雪の推進に向け支援を行っているが、中々進まない状況である。 ・依然、地盤沈下はつづいており、根本的な解決策は見つかっていない。消雪パイプに代わる融雪システムの検討整備が必要 | |
| 市街地は狭隘道路が多く、車両の進入に支障があり、不測の事態の発生に備えた整備が急務。特に冬場には進入が困難。 | ・十二沢川改修に併せ道路を拡幅改良し、消雪施設を整備したことで、緊急車両が進入できない狭隘道路が解消された。 ・緊急車両の乗り入れがスムーズに行うことができるようになり、沿道住民の安心安全な住環境の整備が出来た。 | ・本事業で整備した地区の隣接地にも狭隘道路が残っており、道路拡幅及び小河川の改修により安心安全のまちづくりが更に必要。 | |

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

| | 効果の持続を図る事項 | 効果を持続させるための基本的な考え方 | 想定される事業 |
|---------------------------|----------------|--|---|
| A欄 効果を持続させるため に行う方策 | 施設等の適正な維持管理 | ・整備された施設等を当初の目的に沿って、快適に利用できる環境を維持することが必要である。 | ・定期的な清掃・補修等 |
| | 施設等の有効利用のためのPR | ・大河ドラマ「天地人」の放映をきっかけに整備した施設、観光資源があっても内外に対するアピールが不足しては衰退していく。兼続地区の認知度のアップと、地域の魅力や地域資源を住民自ら発掘、創出することが必要である。 ・新たに地域内に誕生した団体の連携した活動、拡大化を期待するとともに、推進していく。 | ・電子情報板を利用した最新の施設情報やイベント情報の提供 ・Webを活用した情報発信 |
| | | | |

| | 改善する事項 | 改善策の基本的な考え方 | 想定される事業 |
|--|---|---|---|
| B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策 | 展示内容刷新のための関連資料の早期収集 | ・直江兼続公を中心とした観光資源の情報を集約した観光交流センター(伝世館)の建設等、地域の宝を顕彰していくための拠点としての施設が誕生し新たなスポットとなったが、リピーターを呼び込むためにも展示内容の刷新が必要である。 | ・郷土史編さん事業 |
| | 地盤沈下はつづいており、根本的な解決策が見つからないため、消雪パイプに代わる融雪システムの検討整備 | ・地盤沈下を発生させない方策を検討する観測事業を実施し、地下水利用の節水と共存方法の検証を図る。地下水に頼らない融雪システムの検討整備が必要である。 | ・地盤沈下の監視強化 ・克雪住宅・宅地内消雪設備の補助制度 ・流雪溝整備の促進 |
| | 周遊ルートに存在する被害を受けた施設等の早期復旧 | 地域の歴史資源や自然環境を活用した文化交流型のまちづくりを目指すうえで、市内の史跡・自然・ハイキングスポットの散策道等、周遊ルートに被害が出てしまっている状況ではスポットが「点」になってしまったり、見学できなくなっている箇所もある。早急な復旧が必要であり、合わせて坂戸城跡の修復整備も必要となってくる。 | ・坂戸城跡整備事業 ・災害復旧事業 |

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

| | |
|---|---|
| ● | 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。 |
| ● | 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。 |
| ● | 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。 |
| ● | 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。 |
| ● | 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。 |

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

| 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込みの有無 | | フォローアップ計画 | | |
|---------------|--------------|-----|--------|-----|---------|-----|-------------|--------|-------|---------------|--------|--|------|---------|
| | | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | | | | | | 予定時期 | 計測方法 | その他特記事項 |
| 指標1 | 定住人口 | 人 | 7,171 | H18 | 7,100 | H24 | 確定 見込み ● | 7,080 | △ | あり なし ● | H25.3月 | 平成25年3月末日の地区の住民基本台帳人口より確定値を求める。 | | |
| 指標2 | 主要観光施設への来客者数 | 人 | 88,334 | H18 | 100,000 | H24 | 確定 見込み ● | 76,406 | △ | あり なし ● | H25.6月 | 平成24年度宿泊者数調査報告書の結果を用いて確定値とする。 | | |
| 指標3 | 六日町駅の乗降客数 | 人/日 | 5,637 | H17 | 5,637 | H24 | 確定 見込み ● | 5,313 | △ | あり なし ● | H25.6月 | 平成24年度 東日本旅客鉄道株式会社乗車人員調査の結果を用いて確定値とする。 | | |
| | | | | | | | 確定 見込み | | | あり なし | | | | |
| その他の 数値指標1 | 定住人口減少率 | % | △4.12 | H18 | | | 確定 見込み ● | △1.27 | | | H25.3月 | 平成25年3月末日の地区の住民基本台帳人口より確定値を求める。 | | |
| その他の 数値指標2 | イベント数 | 件 | 13 | H18 | | | 確定 見込み ● | 20 | | | | | | |
| | | | | | | | 確定 見込み | | | | | | | |

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

| 項目 | | 要因分析 | 次期計画や他地区への活かし方 |
|--------------------------|------------|--|---|
| 数値目標 ・成果の達成 | うまくいった点 | | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的要因につながっている数値指標は状況悪化の場合、目標の修正等の現実的な対応が必要。 ・事業とその効果を表す数値目標の関係を吟味し、そのデータについては事業の効果を適正に表すものとして重要であり、採用する値は慎重に検討する必要がある。 |
| | うまくいかなかった点 | 設定した指標に3項目とも、目標を達成できなかった。 | |
| 数値目標と 目標・事業との 整合性等 | うまくいった点 | | <ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画作成時や変更時には、指標を改善するための事業がしっかり設定されているかを、見定めることが大切である。 |
| | うまくいかなかった点 | 指標3「六日町駅の乗降客数」については、インフラ整備、中心市街地、駅周辺の整備といった施策による結果として設定したが、事業と指標の関係が遠いことから、効果の発現(数値への影響)も評価に苦慮した。 | |
| 住民参加 ・情報公開 | うまくいった点 | 市道事業化検討に関しては、地元主体の事業手法による検討結果により、スムーズな住民合意も行われ、事業化へと発展し着手している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民参加はまちづくり事業を円滑にする上で有効である。 ・計画当初からまちづくりに対する意見交換を行う場を設置し、事業に対する意見交換を行う必要がある ・事業によって、まちがどのように変化したかを、市民に実感をもたせるような情報発信の工夫が望ましい。 |
| | うまくいかなかった点 | 住民参加は個別事業にとどまったため、事業実施期間中に、住民意見を取り入れる場等の効果的な対策を講じることができなかった。 ・事業によってまちなかが整備され、効果が波及しているが、そのまちの変化を住民に十分伝えていない。 | |
| PDCAによる事業 ・評価の進め方 | うまくいった点 | 事後評価の実施によって、個々の事業成果を確認することはもとより、関連性やまちづくりに関する影響についてへの意識が高まった。 | 事後評価のみではなく、モニタリングを実施し、事業の進捗途中段階での事業効果をみながら事業の実施を進めることが大切である。 |
| | うまくいかなかった点 | | |
| その他 | うまくいった点 | | |
| | うまくいかなかった点 | | |

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

| |
|----|
| なし |
|----|

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

| 公表方法 | 具体的方法 | 公表期間・公表日 | 意見受付期間 | 意見の受付方法 | 担当部署 |
|--------------|------------------------|------------------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| インターネット | 市のホームページに掲載 | 平成24年12月20日～平成25年1月8日 | 平成24年12月20日～平成25年1月8日 | 担当課への 郵送、FAX、電子メール | 企画政策課 (旧まちづくり交付金担当課) |
| 広報掲載・回覧・個別配布 | 広報に市のホームページで公表している旨を掲載 | 平成24年12月15日発行 (広報12月15日号) | 平成24年12月20日～平成25年1月8日 | | |
| 説明会・ワークショップ | - | | | | |
| その他 | 窓口閲覧 | 平成24年12月20日～平成25年1月8日 | 平成24年12月20日～平成25年1月8日 | | |

| | | | | | |
|-------|----|--|--|--|--|
| 住民の意見 | なし | | | | |
|-------|----|--|--|--|--|

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

| 委員構成 | | 実施時期 | 担当部署 | 委員会の設置根拠 | 委員会の母体組織 |
|-----------|---|------------|-------------------------|-----------------------|----------|
| 学識経験のある委員 | 清水 希容子 (財)日本経済研究所 地域未来研究センター 研究主幹 | 平成25年1月18日 | 企画政策課 (旧まちづくり交付金担当課) | 南魚沼市まちづくり交付金評価委員会設置要綱 | 独自に設置 |
| その他の委員 | 南魚沼市都市計画審議会会長 南魚沼市都市計画審議会委員 2名 新潟県地域振興局地域整備部計画調整課長 コンテンツ・ツーリズム推進協議会委員長 | | | | |

| 審議事項※1 | | 委員会の意見 |
|----------------|---------------------------|--|
| 事後評価手続き等にかかる審議 | 方法書 | ・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。 |
| | 成果の評価 | ・意見なし。評価結果については、了承された。 |
| | 実施過程の評価 | ・実施過程については適正であると確認されたが、以下のような意見があった。 ・計画策定の段階で、それぞれの諸団体との相談や検討会議は実施されたのか、今後、同様な計画を策定し事業を行う時は、反省すべき点は反省し、効果のある進め方をしていっていただきたい。 ・これらに対しては、色々な事業を計画し実施している中で折に触れて、地域団体とは対応していた、また天地人関係以来、実行委員会等関係者と情報交換し意見を踏まえ進めてきたこと、また初期段階ではあるが、策定プロセスの中で地元区長との勉強会も開いていたという経緯を説明し理解を得た。 |
| | 効果発現要因の整理 | ・検討会議によってまとめられたことは確認されたが、以下のような意見があった。 ・当初に設定された指標は、いずれも達成されていない訳だが、これでいいのかと疑問がある。状況から判断すると、数値的には表せないものであっても、個々の数字以外のところで、総論的にもう少し評価されてもいいのではないかという意見もあったが、そういった意味も込めて、どの事業も何らかの形で貢献や、効果が発現していることから「△」評価としていると説明し理解を得た。 |
| | 事後評価原案の公表の妥当性 | ・事後評価原案は住民に対して適性に公表されたことが確認された。 |
| | その他 | ・特になし |
| | 事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認 | ・事後評価の手続きは妥当であると認められた。 |
| 今後のまちづくりについて審議 | 今後のまちづくり方策の作成 | ・観光客の数字では大きな効果はないが、地域の中の人づくりということで、様々な組織が団体が立上り、この地域の観光を考えていこうと、連携した組織が出来た。これにより行政ともタイアップを図りながら新しい効果を作っていく。また、このような若い人のアクションは非常に評価しているので、大いに盛り上げていって欲しいという意見があった。 ・防災広場に関する評価や今後の方策への記述がないようなので、盛り込む必要があるのではと意見があったが、これについては評価シートに記述し反映させるとした。 |
| | フォローアップ | ・フォローアップについては妥当であると認められた。 |
| | その他 | ・特になし |
| | 今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認 | ・今後のまちづくりの方策は妥当であると認められた。 |
| その他 | ・特になし | |

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。